

研究課題	『他阿上人法語』『他阿上人家集』の注釈的研究
研究代表者	山本 章博 (文学部 日本文学科 准教授)

1. 研究目的

2019年に時宗二祖他阿上人（真教）の700年忌を迎えるにあたり、『他阿上人法語』及び、『他阿上人家集』の校訂本文及び校異一覧を作成し、それに語釈と現代語訳を施す。これを出版することによって、両書が宗派内のみならず、一般さらには学术界に広く読まれ利用されることを目的とする。また、両書の読解を通じて、他阿の思想史的、文学史的位置づけに関する本格的な研究の基礎を形成する。

時宗の教義・思想・文芸の意義や特色を明らかにするためには、一遍のみならず、二祖他阿上人（真教）の研究が不可欠である。他阿の生涯の事跡を知るための基本資料である『遊行上人縁起絵』については、すでに、校訂本文の作成と現代語訳の作業が進められているが、それを受けて本研究では、法語集である『他阿上人法語』及び和歌集である『他阿上人家集』を対象とする。

他阿を含む時宗研究の基礎資料となる時宗の宗典をまとめた最新の全集として『定本時宗宗典』（時宗宗務所、1979）があるが、発行部数が少なく現在入手困難の状況にあり、全国の図書館の所蔵状況も極めて乏しい。一般のみならず研究者にとっても、利便性に欠ける状況である。また、翻刻にも誤りが認められるなど問題も多い。すでに発行より35年以上が経過しており、最新の成果を取り入れた校訂本文を提供するのは急務である。

『他阿上人法語』については、この『定本時宗宗典』の他に、『大日本仏教全書』、大橋俊雄『時宗二祖他阿上人法語』（大蔵出版、1975）に翻刻されているが、注を付したものは、大橋俊雄『時宗二祖他阿上人法語』のみであり、部分的な簡素な注に止まっている。貴重な注釈であるが、内容理解のために十分ではない。他阿の教義・思想を明らかにするためには、まずはこの著作の読解研究を進める必要がある。

また、『他阿上人家集』は、約1500首の和歌が収められていて、『定本時宗宗典』の他、『新編国歌大観』、『私家集大成』、大橋俊雄『時宗二祖他阿上人法語』に翻刻されている。この内、注を付したものは、大橋俊雄『時宗二祖他阿上人法語』のみであり、これも部分的な簡略な注に止まっている。和歌文学研究において、西行や慈円などの新古今時代の僧侶の和歌に関しては、一定の研究の蓄積があるものの、時宗の一遍と他阿の和歌研究は遅れていて、最新の和歌文学全集である明治書院の和歌文学大系シリーズにも入っていない。論文においても、他の歌人との部分的な影響関係で扱われるのみで、この歌集を総合的に分析した研究はない。

これまでの仏教学・日本文学研究において、この両書を全現代語訳したものはなく、貴重な研究成果となる。

2. 研究方法

具体的な研究項目は以下の通りである。

(1) 『他阿上人法語』『他阿上人家集』の諸本の調査・集成

校訂本文の作成に用いるため、現存の写本・版本の書誌及び本文確認調査、許可されたものの撮影・複写を行った。具体的に調査・撮影を行った本については、研究成果の項に記す。

(2) 『他阿上人法語』『他阿上人家集』の校訂本文の作成及び語釈を含めた現代語訳

『他阿上人法語』及び『他阿上人家集』の校訂本文の作成と語釈・現代語訳の作成を行った。詳細は、研究成果の項に記す。

(3) 『定本時宗宗典』のPDF化

『定本時宗宗典』全2冊をPDF化することにより、検索を可能とした。語釈作成の際に、用例の検索は必須であり、本研究の基礎環境を整えるためのものである。

(4) 他阿上人に関する書籍・論文の集成

本文校訂・語釈・現代語訳作成の際の基礎研究として、研究史を明らかにする必要がある。そのため、他阿上人の関連書籍、また雑誌論文を集成し、内容を確認した上で、研究文献リストを作成した。

(5) 『他阿上人法語』『他阿上人家集』の内容構成表の作成

『他阿上人法語』及び『他阿上人家集』の全体像を把握するため、所収の各話（各歌）の年代の特定、配列について明らかにし、構成表を作成した。

以上の研究項目を行うに当たっては、仏教学と国文学の両面の知見が必要であるため、仏教学専門の研究分担者2名、及び国文学専門の研究分担者3名と協議をしながら共同研究の形で進めた。

3. 研究成果と公表

主な研究成果は以下の通りである。

(1) 『他阿上人法語』『他阿上人家集』の諸本の調査・集成

現在知られている『他阿上人家集』の諸本に次のものがある。

①彰考館蔵「他阿上人家集」（巳九、小山田本、片仮名本）

→国文学研究資料館マイクロ・紙焼写真

②彰考館蔵「他阿上人集」（巳九、小山田本、平仮名本、他阿上人四十八願和歌を巻末に拼綴）

→国文学研究資料館マイクロ・紙焼写真

③筑波大学蔵「他阿上人家集」

④福井久蔵旧蔵「二祖御詠吟集」

（大日本歌書総覧所収→遊行三十二世他阿上人の詠にて・・・） →所在不明

⑤市比売金光寺蔵「二祖大鏡集」(八三)(ペン書き)

⑥市比売金光寺蔵「二祖大鏡集」(八四)(蝸牛廬叢書)

このうちの③⑤⑥について、所蔵元に赴き書誌調査及び撮影を行うことができた。

③筑波大学図書館蔵本

彰考館片仮名本の完全なる透写本であることが判明した。彰考館本における虫食い箇所も忠実に記され、綴じ目の隠れ具合も再現されている。また、現在の彰考館本で、虫食い等により判別不能となっている箇所に、文字が記されている場合も多く、筑波本の書写当時(書写年次不明)の彰考館本の状態を再現することができる。よってこの筑波本を翻刻の際の底本とすることとした。

⑤市比売金光寺蔵本「二祖大鏡集 他阿上人法語記載洩之分」

金光寺蔵目録の83に、昭和8年8月に賢善が書写したものとする。原稿用紙にペン書きされたものである。奥書に甲州鶴郡西念寺で書写した旨が記されている。

⑥市比売金光寺蔵本「二祖大鏡集 自第八卷至十卷 和歌部」

金光寺蔵目録の84に、昭和8年8月に賢善が書写したものとするが、奥書はない。⑤「二祖大鏡集 他阿上人法語記載洩之分」とは異なる原稿用紙に筆書きされている。漢字片仮名表記で、彰考館片仮名本・筑波本とほぼ共通した本文を持つが、独自異文も少なくないので、対校本として用いることとした。

また、『他阿上人法語』の諸本の内、次の本について所蔵元に赴き書誌調査及び撮影を行うことができた。

『他阿上人法語』金沢大学附属図書館暁鳥文庫蔵本(石川県金沢市)

虫食い等少なく、『他阿上人法語』の翻刻の際の底本として用いることとした。また、巻八の和歌部は、『他阿上人家集』の対校本として用いることとした。

以上の調査の結果により、校訂本文作成の際の底本及び対校本を確定した。

(2)『他阿上人法語』『他阿上人家集』の校訂本文の作成及び語釈を含めた現代語訳

『他阿上人法語』は、金沢大学暁鳥文庫蔵本を底本とし、仏教学専門の分担者により、現代語訳の試案を作成した。今後国文学専門の分担者により、修正作業を行う予定である。

『他阿上人歌集』は、筑波大学蔵本を底本とし、金光寺蔵「二祖大鏡集 自第八卷至十卷 和歌部」を対校本として、校訂本文の作成を全体の三分の一程度行った。彰考館片仮名本等の他の対校本との校異の確認は、今後まとめて行う予定である。

また、『他阿上人歌集』につき、上記の作業を行う中で得られた知見は以下の通りである。

①現在出版されている活字本の翻刻の誤りを数カ所見出したが、多くは字体の似通う片仮名の「ノ」「ヲ」「ソ」「シ」の翻刻の誤りである。

②金光寺本「二祖大鏡集 自第八卷至十卷 和歌部」は、筑波大学蔵本との比較により、書写

者が自らの解釈により本文を校訂していると推察される箇所が多い。

③筑波大学蔵本に金光寺本「二祖大鏡集 自第八卷至十卷 和歌部」を対校させることにより、筑波本の漢字の読み方を推定することが可能になる箇所がある。

④現在出版されている活字本の翻刻では、読み方が不明な箇所が多くあり、現代語訳とともに、それを読める本文を提供することが急務であるという認識を得た。

以上の成果を踏まえ研究を継続し、『他阿上人法語・他阿上人家集 全訳』（仮称）として、2019年度に刊行による公開を目指す。良質の本文と現代語訳を提供することによって、仏教学のみならず国文学の側からも関心が集まり、他阿の思想史的、文学史的な位置付けに関する研究が進展することが期待される。また、その現代語訳によって、一般にも他阿の思想・文芸に関する理解が広まり、宗派内においても教義伝道に大きく寄与することが期待される。

参考文献

- ①著者不明「他阿上人法語並に器朴論解題」（『仏書研究』22、1916・8）
- ②筑土鈴寛「西方憧憬—浄土の文藝」
（日本文学大系第19巻『宗教文学』河出書房、1938・9
→『筑土鈴寛著作集』第1巻、せりか書房、1976・4、55～64頁）
- ③井上宗雄『中世歌壇史の研究 南北朝期』（明治書院、1965・11、改訂新版1987・5）
- ④金井清光『時衆文芸研究』（風間書房、1967・11、改訂版1989・1）「時衆と和歌」8～11頁
- ⑤平田諦善『遊行二祖他阿上人の思想と信仰』（時宗教学研究所、1969・8）
- ⑥金井清光『一遍と時衆教団』（角川書店、1975・3）「歌人としての真教」276～281頁
- ⑦大橋俊雄「真教と時衆教団の成立」（『時宗二祖他阿上人法語』大蔵出版、1975・12）
- ⑧小原幹雄「藤原為兼と時宗二祖他阿」（『島大國文』5、1976・3）
- ⑨橘俊道「歌人としての他阿上人」（『新修日本絵巻物全集』第23巻、角川書店、1979・9）
- ⑩金井清光「一遍・他阿の法語」（『仏教文学講座』第3巻、勉誠社、1994・7）
- ⑪藤原正義「時宗二祖他阿真教の歌詠集について」（『時宗文化』5、2002・4）